

【担当教員】

加藤 幸夫

【教員室または連絡先】

化学経営情報1号棟504室

【授業目的及び達成目標】

多様な世界観と価値観の諸相をヨーロッパ精神史の流れに沿って考察し、自然・社会・人間のありようを把握する際の、ものの見方・考え方の重要性を認識させる。西洋哲学の基礎概念を体系的に修得し、哲学的思考形態の習熟が主要な課題である。この科目は哲学入門としての性格も兼ね備えている。本学の教育目的1、2、3に該当する。

【授業キーワード】

世界観、価値観、人間観、哲学・倫理思想、人類の幸福

【授業内容及び授業方法】

講義形式を主体とする。随時レポートを課す。

【授業項目】

1. 西洋思想の源流(①週目)
2. ギリシャ古典時代の哲学と世界観(②～④)
 - 1) ソクラテス以前の自然哲学
 - 2) ソフィストとソクラテス
 - 3) プラトン、アリストテレス
3. ヘレニズムの人間観と価値(⑤)
エピクロス学派とストア学派
4. 中世キリスト教世界の人間観(⑥)
 - 1) 初期教父哲学
 - 2) スコラ哲学
5. ルネサンスと宗教改革(⑦)
 - 1) イタリア・ヒューマニズムの思想
 - 2) マルティン・ルター
6. 近世・近代の思想(⑧～⑩)
 - 1) デカルトと合理主義的人間観
 - 2) イギリスの経験論とフランス啓蒙主義思想
 - 3) カントとドイツ観念論
7. 二十世紀の思想(⑪～⑬)
マルクス主義、実存主義、プラグマティズム
8. 世界観の類型と変容(⑬)
9. 価値観の諸相と系譜(⑭)
10. 期末試験(⑮)

【教科書】

「西洋哲学思想史」山下太郎 北樹出版
適宜プリントも配布・使用する。

【参考書】

「ヨーロッパ精神史」飯塚勝久・水野建雄編著(北樹出版)
「西洋哲学史」内山勝利・中川純男編著(ミネルヴァ書房)

【成績の評価方法と評価項目】

概ね次のような割合に基づいて評価する。
期末試験(60%)・中間試験(30%)・レポート(10%)

【留意事項】

世界史の大まかな流れを把握しておくことが望ましい。

【担当教員】

芳井 幸子

【教員室または連絡先】

非常勤講師

【授業目的及び達成目標】

今年度は明治維新から、十五年戦争期までの時期を学習する。明治維新以来の近代国家形成の歩み、十五年戦争、そして敗戦が、戦後六十年を迎える現在どのような意味をもつのか、改めて考える機会としたい。

【授業キーワード】

近代天皇制、民主主義、帝国主義、アジア侵略

【授業内容及び授業方法】

毎回配布するレジュメに沿って講義する。

【授業項目】

1. 近代国家体制の樹立(3回)
維新政府の改革と自由民権運動。
 - ・明治維新
 - ・自由民権運動
 - ・大日本帝国憲法の制定
2. 帝国主義国日本への道(3回)
帝国主義時代という国際環境と日本
 - ・日清戦争
 - ・日露戦争
 - ・日本の植民地支配
3. 政党政治の展開(4回)
日露戦後の民衆運動の高揚と政党内閣に至る政党政治の展開
 - ・日露戦争後の社会
 - ・第一次世界大戦と日本
 - ・社会運動の高揚と政党政治の展開
 - ・中国の民族解放運動の進展と国際協調外交
4. 十五年戦争(4回)
1931年9月の柳条湖事件から、1945年8月のポツダム宣言の受諾にいたるまでの一連の戦争過程
 - ・満州事変
 - ・日中戦争の全面化
 - ・三国同盟と日米戦争
 - ・敗戦
5. 期末テスト

【教科書】

特定のものを使用しない。

【参考書】

適宜、授業の中で紹介します。

【成績の評価方法と評価項目】

1. 評価方法
 - ・ 期末試験60%、課題レポートなどの提出物40%を総合して評価する。
 - ・ 期末試験は授業で配布したプリントの持ち込みを認めます。
 - ・ 学期中にレポートの提出を求めます。
 - ・ その他授業中に鑑賞したビデオについての感想文などの提出を求めます。
2. 評価項目
 - ・ 基本的な歴史事項を理解しているか。
 - ・ 時代背景を十分に理解したレポートが書けているか。
 - ・ 自分の考えが要領よくまとめられているか。

【留意事項】

おそらく授業という形で日本の近現代史を学ぶ最後の機会となると思いますので、高校時代に日本史を学ばなかった学生は、特に受講を勧めます。

【担当教員】

若林 敦

【教員室または連絡先】

化学・経営情報1号棟502室

【授業目的及び達成目標】

ことばの性質、及びコミュニケーションの仕組みを理解し、ことばのよい送り手・受け手となる。

【授業キーワード】

ことば、記号論、コミュニケーション、意味論、語用論、メディア・リテラシー

【授業内容及び授業方法】

教員の講義によって進める。授業時には資料をプリントとして配付する。中間試験と期末試験を行う。試験では、授業で習得した知識を確かめる。併せて、授業内容に関連する事例をあらかじめ収集し、それを考察することも課す。

【授業項目】

- はじめに -ことばとコミュニケーションについて- (1回)
- 1.ことばと記号(3回)
記号論の考え方、記号としてのことば
 - 2.コミュニケーションの構造(3回)
発信者・受信者・メッセージ、文脈と状況
(中間試験) (1回)
 - 3.意味と経験(3回)
ことばの意味、デノテーションとコノテーション
 - 4.メディア・リテラシー(3回)
事実の世界とことば、メディア・スタディ
(期末試験) (1回)

【教科書】

用いない。

【参考書】

池上嘉彦『記号論への招待』(岩波新書、1984)、菅谷明子『メディア・リテラシー』(岩波新書、2000)

【成績の評価方法と評価項目】

- 1.評価方法
試験による。
- 2.評価項目
 - 1)ことばとコミュニケーションに関する知識を習得した。
 - 2)自ら事例を収集し、それを考察することができた。

【留意事項】

ことばとコミュニケーションに関する諸事象に普段から関心を持ち、事実をよく観察すること。

【担当教員】

加藤 幸夫

【教員室または連絡先】

化学経営情報1号棟504室

【授業目的及び達成目標】

人間存在に関する基本問題を、倫理学基礎論の考察を通じて明らかにし、同時に高度技術社会としての現代の社会構造を分析し、現代人としてのあり方を主体的に探らせる。それをベースにして、現代社会における技術者倫理についても考察する。内容的に倫理学入門にも相応する。本学の教育目的1、2、3に該当する。

【授業キーワード】

人類の幸福・福祉、人間と倫理、責任論、技術社会、技術者倫理

【授業内容及び授業方法】

講義形式を主体とするが、受講者が少人数の場合には、討論形式も併用する。随時、確認のための小テストを行う。数回レポートを課す。

【授業項目】

- 1 人間論の成立(①週目)
- 2 人間論の類型(②)
- 3 人間存在論(③)
- 4 倫理学基礎論(④)
- 5 人間と倫理(⑤～⑥)
- 6 規範倫理理論(⑦)
- 7 技術と倫理(⑧)
- 8 倫理的責任論(⑨～⑩)
- 9 技術者倫理(⑪～⑬)
- 10 現代倫理学の課題(⑭)
- 11 期末試験(⑮)

【教科書】

特定の教科書は使用しない。随時プリントを配布する。

【参考書】

「現代の人間学」南条文雄著 北樹出版
「人間論の可能性」瀬島順一郎他 北樹出版
「技術倫理」C.ウイトベック(札幌 順・飯野弘之訳)。みすず書房
その他、講義中に随時紹介する。

【成績の評価方法と評価項目】

概ね次のような割合に基づいて評価する。
期末試験(60%)・中間テスト(30%)・レポート(10%)

【担当教員】

相沢 央

【教員室または連絡先】

非常勤講師

【授業目的及び達成目標】

東アジアのなかにおける日本古代律令国家の形成過程とその支配の特質、および古代社会の構造を理解することによって、現代社会におけるさまざまな問題について歴史的に考える視点をもつことを目標とする。

【授業キーワード】

国際関係、律令国家、遺跡、村落、木簡、墨書土器

【授業内容及び授業方法】

日本列島における最初の本格的な国家である古代律令国家は、東アジアの諸国家・諸地域間の緊張関係の中で形成された。この授業では、古代律令国家と東アジア諸国・諸地域との関係を具体的に論じるとともに、古代国家による支配の仕組みと古代地方社会の構造を、文献史料や、近年の発掘調査によって急増する木簡、墨書土器など、最新の出土文字資料を活用しながら論じる。毎回配布する資料によって授業を行い、授業についてのコメント(感想、質問等)を提出してもらう。

【授業項目】

1. はじめに—現代社会と古代—(4回)
 - ・国号「日本」
 - ・「天皇」号の成立
 - ・都道府県の領域
 - ・様々な年中行事
2. 古代日本の国際関係(5回)
 - ・邪馬台国の時代の国際関係
 - ・倭の五王の時代の国際関係
 - ・聖徳太子の時代の国際関係
 - ・律令国家の時代の国際関係
3. 古代日本の村落構造(5回)
 - ・古代の村落
 - ・墨書土器からみた古代の村落
 - ・古代の村人の信仰
 - ・古代の識字率
4. 期末試験

【教科書】

なし。毎回配布する資料を用いる。

【参考書】

授業の中で示す。

【成績の評価方法と評価項目】

課題レポート50%、期末試験50%の割合で成績を評価する。課題レポートは学期中に2～3回提出してもらう。

【留意事項】

毎回かなりの分量の資料を配布する。
毎回講義終了時に講義内容等についてのコメント(感想、質問)を提出してもらう。

【担当教員】

若林 敦

【教員室または連絡先】

化学経営情報1号棟502室

【授業目的及び達成目標】

日本の近・現代小説に描かれた人間像をとらえることを通じ、小説の鑑賞法を学ぶとともに、人間や社会についての問題意識を養う。

【授業キーワード】

日本近代小説、日本現代小説

【授業内容及び授業方法】

教員の講義によって進める。「授業項目」に示す作家と作品を取り上げる。授業時には資料をプリントとして配付する。受講する学生は、以下のことを行う。

- 1.それぞれの作品を各自で読んでおく。
- 2.「授業項目」1.~3.のそれぞれの終了時に課すレポートを提出する。レポートでは、授業の内容をふまえ、自分の考えを述べる。

【授業項目】

- 1.樋口一葉
1)樋口一葉の生涯(2回) 2)『たけくらべ』(1896) (3回) 3)『にごりえ』(1895) (2回)
- 2.村上春樹
1)『風の歌を聴け』(1979) (1.5回) 2)『ノルウェイの森』(1987) (3.5回)
- 3.遠藤周作
1)『深い河(ディープ・リバー)』(1993) (3回)

【教科書】

樋口一葉『たけくらべ』(集英社文庫)
村上春樹『風の歌を聴け』(講談社文庫)、『ノルウェイの森』(上下、講談社文庫)
遠藤周作『深い河(ディープ・リバー)』(講談社文庫)

【参考書】

『群像 日本の作家3 樋口一葉』(小学館、1992)、『群像 日本の作家26 村上春樹』(小学館、1997)、『群像 日本の作家22 遠藤周作』(小学館、1991)

【成績の評価方法と評価項目】

- 1.評価方法
レポート(3回)による。
- 2.評価項目
1)作品を読み、授業の内容が理解できた。
2)各作家の作品に対し、自分の考えを深め、まとめることができた。

【留意事項】

「授業項目」に示した作家・作品を、他の作家・作品(文庫化されたもの)に変更することがある。最初の授業時に確定した作品リストを示す。

【担当教員】

塩野谷 明

【教員室または連絡先】

体育・保健センター108室(内線9823,E-mail:shionoya@vos.nagaokau.ac.jp)

【授業目的及び達成目標】

社会の変化に対応し、生涯を通じて、自己の能力を高めることができる技術者の資質として必要となる健康や身体的運動能力を身に付けるとともに、それらの身体運動を初歩的な力学、スポーツバイオメカニクスの視点から捉え、より高度な運動パフォーマンスの獲得や積極的な健康づくりのための科学的基礎および理論について実技をとおして学ぶ。これらの目的は、そのまま授業における広義の達成目標とし、また各授業項目における内容の理解と習得を狭義の達成目標として位置付ける。

【授業キーワード】

テニス、脂肪率(量)、PWC75%HRmax、体力テスト

【授業内容及び授業方法】

ひとつの教材(テニス)をとおして、その技術の獲得とともに、そこで行われる運動の強度や活動量の測定・推定および力学的視点にたった技術の実習を個人またはグループ単位で行う。合わせて、幅広い身体活動(運動・スポーツ)に係る基礎的知識について実習する。1コマの授業時間が他の授業に比べて長い為、毎回教材に係る活動を1時間30分、身体活動に係る基礎的実習で30分程度を目安に行う。身体活動に係る基礎的実習内容は、脂肪量(率)の測定、PWC75%HRmaxの測定、体力テスト、最大挙上重量の推定、救急法等を行う。

【授業項目】

【教材に係る実習】

1. ゲームが行えるまでの技術の総括
2. フォアハンドストローク
3. バックハンドストローク
4. サービスとボレー
5. 教材における運動強度・活動量
6. 7. 8. ゲーム

【身体活動に係る基礎的実習】

9. 適性運動強度の算出(PWC75%HRmax)
10. 体力テスト(簡易テストならびに形態計測)
11. 脂肪量・脂肪率の計測
12. 最大挙上重量(1RM)の推定
13. パワーの測定(垂直跳びパワー等)
14. 着衣水泳
15. 救急法

注)授業項目の頭の番号は授業回数を示すものではない。

【教科書】

教科書 特に指定しない。

【参考書】

「新・テニスの科学」テニスジャーナル社(塩野谷 明他)
「健康ライフをめざす基礎知識」考古堂書店(塩野谷他編著)

【成績の評価方法と評価項目】

上記学習項目に関する冊子(30頁程度)またはpptファイル資料を配布、冊子(または資料)のレポート内容を完成させることで評価する(60点)。但し、レポートは出席(40点)をしなければ作成ができない。

【担当教員】

塩野谷 明

【教員室または連絡先】

体育・保健センター108室(内線9823,E-mail:shionoya@vos.nagaokau.ac.jp)

【授業目的及び達成目標】

社会の変化に対応し、生涯を通じて自己の能力を高めることができ、さらにより広い視野を持った技術者となる一助として、身体的運動能力について高いパフォーマンスの獲得を目的とさせ、それを達成するための過程(努力の重要性や達成のプロセス)を学ぶ。体育実技Iがすべての人間に必要な基礎的運動能力の獲得を主としているのに対し、体育実技IIではより高度な運動技術の獲得ならびに知識の獲得に主眼を置いている。これらの目的は、そのまま授業における広義の達成目標として、また各授業項目における内容の習得を狭義の達成目標として位置付ける。

【授業キーワード】

パフォーマンス、国際大会、水泳、テニス、野外スポーツ

【授業内容及び授業方法】

授業全体(15回)を3つに分け、3つのスポーツ種目を中心に実習を行う。授業は、1週間のカリキュラム内の指定された曜日時間のみで行うのではなく、集中方式も併用し、総時間数で調整する。それぞれのスポーツでは、分習的な技術習得と全習的な運動実践(試合等)を行う。授業では国際的なレベルの技術体験の他、技術をバックアップする体力的な側面についても、オリンピック等の国際大会に出場する選手等が行う体力テストを体験するとともに、その基礎知識についても学ぶ。

【授業項目】

【スポーツ種目と内容】

1. 水泳
 - 1-1.国際大会(オリンピック等)における水泳技術
 - 1-2.スタート、ターン
 - 1-3.スプリントおよびディスタンス
2. テニス
 - 2-1.国際大会(ウィンブルドン等)におけるテニスの技術
 - 2-2.ストローク、サーブ、ボレー
 - 2-3.戦術
3. 野外スポーツ(スキー)
 - 3-1.国際大会(オリンピック等)におけるスキーの技術
 - 3-2.グランジヤー
 - 3-3.スラロームとジャイアントスラローム

【体力テスト】

- 4.最大酸素摂取量測定の原理
- 5.最大無酸素性パワー測定の原理
- 6.Wingate power testの原理

【教科書】

特に指定しない。

【参考書】

特に指定しない。

【成績の評価方法と評価項目】

3つのスポーツおよび体力テストから1つを選択し、技術テストまたは理論テストを行う。体力テストについては、理論テストのみ。

【留意事項】

この科目については、履修者以外にも積極的に内容を公開すること(見学)を考えている。
この点の含め、この科目については、ガイダンスでの説明を十分参考とするように。

【担当教員】

塩野谷 明

【教員室または連絡先】

体育・保健センター108室（内線9823,E-mail:shionoya@vos.nagaokau.ac.jp）

【授業目的及び達成目標】

心身の健康とスポーツの関係をスポーツバイオメカニクスに基いて理解させるとともに、スポーツ方法論（体育実技）での実践内容について、より理論的な意味付けを行ない、健康のための生涯スポーツを実践する知識と能力を養う。併せて、スポーツに関する身近な話題から、本学の専門分野である工学とスポーツの関連性について考えさせる。

【授業項目】

1. 総論：健康に関与する体力とは
2. 総論：精神的要素～YGテストによる評価
3. 総論：身体的要素～スポーツ方法論における体力テストによる評価
4. 総論：健康問題総論
5. 各論：エネルギー代謝～有酸素性と無酸素性代謝
6. 各論：心拍数のもつ意味
7. 各論：最大酸素摂取量、PWC75%HRmax
8. 各論：AT、LT、VT～マラソンを完走するためには？
9. 各論：パワーについて
10. 各論：筋の特性
11. 各論：健康のためのスポーツ実践
12. 各論：ウォーキング
13. スポーツ方法論IIへのいざない
14. トピックス：ジャンプ競技のV字飛行
15. 紙飛行機コンテスト

【教科書】

「健康ライフをめざす基礎知識」考古堂書店（塩野谷他著）
購入は授業開始後指示するので、先に自分で購入することのないように）

【成績の評価方法と評価項目】

各学習項目毎の10分間レポート、講義ノート提出

【留意事項】

※本科目は、eラーニング科目として、科目等履修生、及び聴講生もしくは単位互換協定にかかる特別聴講学生に対して開講されたものであり、本学に通学しなくても遠隔地等の学外から履修できる遠隔授業科目である。よって、これ以外の本学学生は履修できない。

選択ではあるが、スポーツ方法論との関連が強いため、履修しておくことが望ましい。最終日に紙飛行機（自作：独創性を求める）飛行コンテストを行なう。ジャンプ競技のV字飛行の原理を考える。